

# エコアクション21

## 環境経営レポート

対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日



ブルーテクノ株式会社

広島県三原市宗郷二丁目3番35号

TEL: (0848) 67-5611

FAX: (0848) 38-7993

発行日: 2022年6月24日

# 目 次

●環境経営方針	1
●取組の対象組織・活動	2
会社概要	
事業規模	
認証・登録の対象組織・活動	
●環境経営システム組織図	3
各部門の役割	
●環境経営目標	4
●実績と環境経営目標達成状況	5
●主要な環境経営計画の内容・実績	6～15
地域貢献・環境活動	
●環境関連法規への違反、訴訟の有無	16
●代表者による全体の評価と見直し・指示	17

# 環境経営方針

私たちは積極的に環境保全活動を推進し、公共用水域の水質保全をはじめ地球温暖化・廃棄物問題・身近な自然の減少など、現在の環境問題を解決し、持続可能な社会を構築していかなければなりません。

当社は社員一人ひとりが環境保全の重要性を踏まえ、省エネルギーの推進や資源の循環利用など、「エコアクション21」の理念を基に、主体的な取り組みを行い地域社会に貢献し、信頼される会社を目指して事業活動を行います。

## 《活動指針》

1. 当社は、下記の取組を行います。

- ① 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ② 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量を原単位で削減します。
- ③ 一般廃棄物の分別と4 R(Reduce・Reuse・Recycle・Repair)の推進を行います。
- ④ 上水道の節水に努めます。
- ⑤ エコドライブの推進によって自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ⑥ 事務用品の調達においてグリーン購入を推進するとともに省資源に努めます。
- ⑦ 良好な放流水を確保することによって、水環境への負荷の低減に努め、沼田川および瀬戸内海の環境保全に努力します。
- ⑧ 毒物劇物等の化学物質を適切に管理し、適正量の使用に努めます。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規等や当社が約束したことを順守します。

制定日：2010年7月1日

改定日：2018年4月2日

代表取締役



## 取組の対象組織・活動

### 会社概要

- 会社名                   ブルーテクノ株式会社
- 代表者名               代表取締役   篠澤 浩二
- 所在地                 広島県三原市宗郷二丁目3番35号
- 設立                   平成7年10月16日
- 資本金                 1,050万円
- 売上高                 33,204万円
- 事業年度               4月～翌年3月
- 事業内容               公益財団法人 広島県下水道公社からの委託を受けた  
下水道処理施設運転保守管理
- 担当者：               土井田 智雅子
- 連絡先：               TEL：(0848) 67-5811      FAX：(0848) 67-5810  
E-mail：info@blue-techno.co.jp

### 事業規模

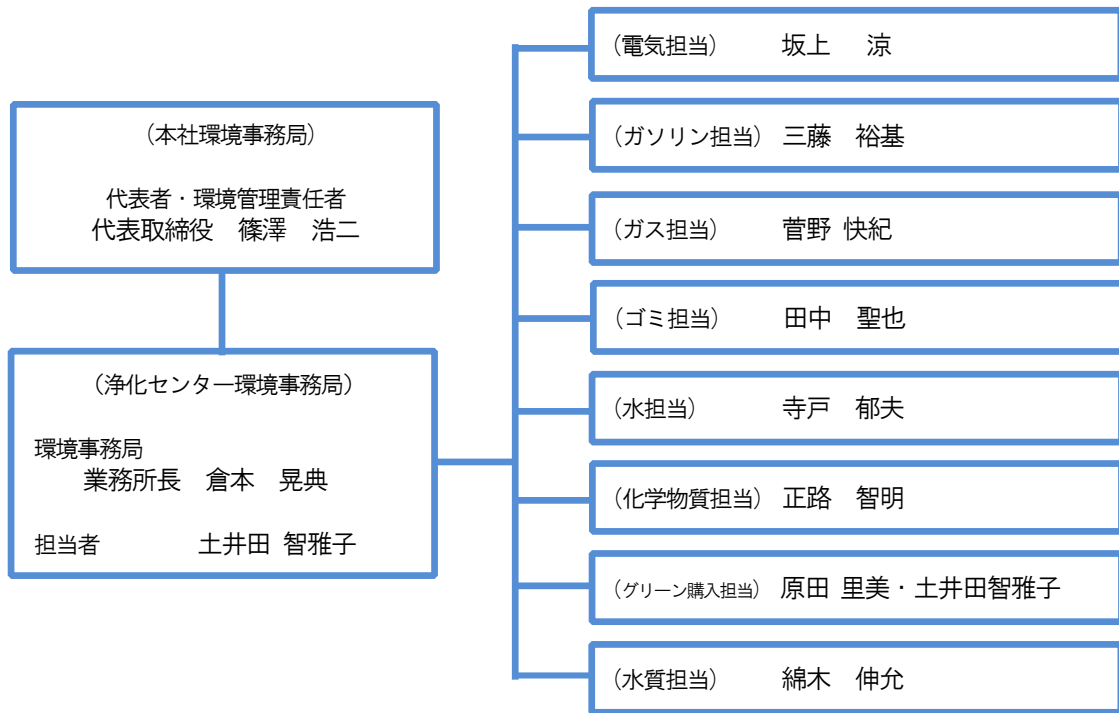
従業員数	24人
延べ床面積	32.39 m <sup>2</sup> (本社)
処理水量	5,244 千m <sup>3</sup> (2021年度 沼田川浄化センター)

### 認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名            本社
- 活動                   下水道処理施設運転保守管理

# 環境経営システム組織図

更新日：2021年5月6日



## 各部門の役割

代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・法規制等の要求事項登録簿を承認</li> <li>・環境経営計画書を承認</li> <li>・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>・「環境関連法規等チェックリスト」の作成</li> <li>・環境経営目標・環境経営実施計画書原案の作成</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・従業員に対する教育訓練の実施</li> </ul>
担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・担当の問題点の発見、是正、予防処置</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動への参加</li> </ul>

# 環境経営目標

## ○ 短期及び中・長期環境経営目標

(2020年度の実績を基準値とし、2021~2023年度の環境経営目標を策定しております。)

項目			単位	基準値		目標値					
				2020年度	2021年度	短期		中・長期			
						2022年度	2023年度	削減割合	削減割合	削減割合	削減割合
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	原単位(電力/放流量)	kWh/m <sup>3</sup>	0.7452	0.7377	対前年度比 1.0%減	0.7303	対前年度比 1.0%減	0.7230	対前年度比 1.0%減
			kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	0.3420	0.3386		0.3352		0.3318		
		【参考】電力量	kWh/年	3,882,864	3,844,035	—	3,805,595	—	3,767,539	—	
		kg-CO <sub>2</sub> /年	1,782,235	1,764,412		1,746,768		1,729,300			
		★ 電力量	kWh/年	1,390	1,390	現状維持	1,390	現状維持	1,390	現状維持	
	kg-CO <sub>2</sub> /年		941	941		941		941			
	燃料	浄化センター	ガソリン	km/L	15.76	15.76	現状維持	15.76	現状維持	15.76	現状維持
				kg-CO <sub>2</sub> /年	1,453	1,453		1,453		1,453	
		LPG	m <sup>3</sup> /年	42,916	42,873	0.1%減	42,787	0.3%減	42,701	0.5%減	
			kg-CO <sub>2</sub> /年	267	267		266		266		
★ ガソリン		km/L	15.44	15.44	現状維持	15.44	現状維持	15.44	現状維持		
kg-CO <sub>2</sub> /年	2,940	2,940		2,940		2,940					
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター	kg/年	682.00	681.32	0.1%減	680.64	0.2%減	679.95	0.3%減	
		★ 本社	kg/年	8.59	8.59	現状維持	8.59	現状維持	8.59	現状維持	
	産業廃棄物	★ 浄化センター	kg/年	654.22	654.22	現状維持	654.22	現状維持	654.22	現状維持	
水使用量	上水道使用量	☆ 浄化センター	m <sup>3</sup> /年	1,013.03	1,013.03	現状維持	1,013.03	現状維持	1,012.02	0.1%減	
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター	kg/年	対象物質購入量把握							
グリーン購入対象品の購入	浄化センター	品/年	グリーン対応品購入数確認(新種品購入時)								
	本社	品/年									
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター	mg/L	自己管理基準値以下(14.0mg/L以下)							
	BOD			自己管理基準値以下(5.0mg/L以下)							

※ 原単位は、放流量1m<sup>3</sup>あたりの電力使用量(kWh)としています。

※ 本社の電力量二酸化炭素排出係数は、0.677 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) としています。

(平成30年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数)

※ 浄化センターの電力量二酸化炭素排出係数は、0.459 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) としています。

(平成30年度 新出光 二酸化炭素調整後排出係数)

※ 電力、ガソリン、LPGの二酸化炭素排出量は参考値とします。

※ 本社は、ガスが供給されていないため、データがありません。

※ 本社の水道施設は、ビル共用により、データがありません。

※ 化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※ 放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理し、評価は、年間を総合して行います。

※ 前年度目標達成項目は、基準値は前年度実績値とする。

※ 前年度目標未達成項目で、2020年度の結果より、基準値を2019年度実績値とする項目(項目欄:★印)

※ 前年度目標未達成項目で、2020年度の結果より、基準値を2020年度実績値とする項目(項目欄:☆印)

# 実績と環境経営目標達成状況

## ○ 環境目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果

項目	単位	基準値		目標値		実績		達成判定			
		2020年度	2021年度	2021年度	2021年度						
				増減割合	増減割合						
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	原単位（電力/放流量）	kWh/m <sup>3</sup>	0.7452	0.7377	対前年度比 1.0%減	0.7276	2.37%減	○	
				kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	0.34	0.3386		0.3340			
		【参考】電力量		kWh/年	3,882,864	3,844,035	-	3,812,591	-		
				kg-CO <sub>2</sub> /年	1,782,235	1,764,412		1,749,979			
	★ 電力量		kWh/年	1,390	1,390	現状維持	1,386	0.29%減	○		
			kg-CO <sub>2</sub> /年	941	941		938				
	燃料	浄化センター	ガソリン		km/L	15.76	15.76	現状維持	13.55	14.05%減	×
				【参考】ガソリン使用量：635.55L		kg-CO <sub>2</sub> /年	1,453.39		1,453.39		
			LPG		m <sup>3</sup> /年	42.92	42.87	0.1%減	29.61	30.99%減	○
					kg-CO <sub>2</sub> /年	267.00	266.73		183.91		
		★ ガソリン		km/L	15.440	15.440	現状維持	14.99	2.92%減	×	
			【参考】ガソリン使用量：1438.98L		kg-CO <sub>2</sub> /年	2,940		2,940			3,338.43
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター		kg/年	682.00	681.32	0.1%減	685.03	0.44%増	△	
		★ 本社		kg/年	8.59	8.59	現状維持	15.28	77.88%増	×	
	産業廃棄物	★ 浄化センター		kg/年	654.22	654.22	現状維持	659.37	0.79%増	△	
水使用量	上水道使用量	☆ 浄化センター		m <sup>3</sup> /年	1,013.03	1,013.03	現状維持	1,008.94	0.40%減	○	
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター		kg/年	対象物質購入量把握			34.00	-	○	
グリーン購入	浄化センター			品/年	グリーン対応品購入数確認（新種品購入時）			0	-	○	
	本社			品/年				0	-	○	
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター		mg/L	自己管理基準値以下（14.0mg/L以下）			-		○	
	BOD			mg/L	自己管理基準値以下（5.0mg/L以下）			-		○	

※ 2021年度の二酸化炭素総排出量は、1,762,260.26 (kg-CO<sub>2</sub>) です。

※ 原単位は、放流量1m<sup>3</sup>あたりの電力使用量(kWh)としています。

※ 本社の電力量二酸化炭素排出係数は、0.677 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) としています。

(平成30年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数)

※ 浄化センターの電力量二酸化炭素排出係数は、0.459 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) としています。

(平成30年度 新出光 二酸化炭素調整後排出係数)

※ 換算係数 ガソリン：2.32kg-CO<sub>2</sub>/L、LPG：3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg (1m<sup>3</sup>=2.07kg) とします。

※ 電力、ガソリン、LPGの二酸化炭素排出量は参考値とします。

※ 本社は、ガスが供給されていないため、データがありません。

※ 本社の水道施設は、ビル共用により、データがありません。

※ 化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※ 放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理し、評価は、年間を総合して行います。

※ 達成判定の評価における【△】は、数値目標の△10%以内としています。

※ 前年度目標達成項目は、基準値は前年度実績値とする。

※ 前年度目標未達成項目で、2020年度の結果より、基準値を2019年度実績値とする項目（項目欄：★印）

※ 前年度目標未達成項目で、2020年度の結果より、基準値を2020年度実績値とする項目（項目欄：☆印）



# 主要な環境経営計画の内容・実績

## ◆ 本社

### ① 電力使用量の削減

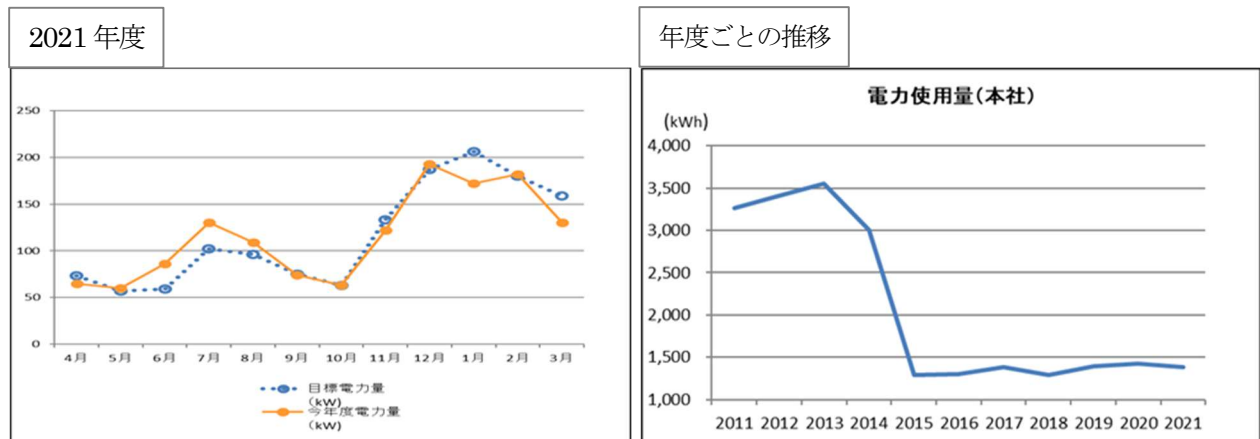
#### ○ 取組内容・実勢

- ・退室時に不要な照明は消灯する
- ・コピー機（複合機）を省エネモードにする
- ・エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する

本社は出入口しか開口部がないため、事務所に熱がこもり易い。特に夏季の電力量削減は困難であるが、室内環境が整っていることを前提とした上で、エアコンの設定温度の見直し、クールビズ・ウォームビズの推奨及び使用していない電化製品の電源をこまめに切ることで電力量削減対策を行っています。

また、新型コロナウイルス対策として、冷房及び暖房稼働時でも換気を継続して行っています。今年度は、状況により目標値である前年度と比較して増減があるものの、年間を通して概ね目標値を達成できました。

来年度も、新型コロナウイルス対策を講じつつ、業務及び体調に支障をきたさない範囲で節電に取り組んでいきます。





## ② 自動車燃料の削減（燃費の向上）

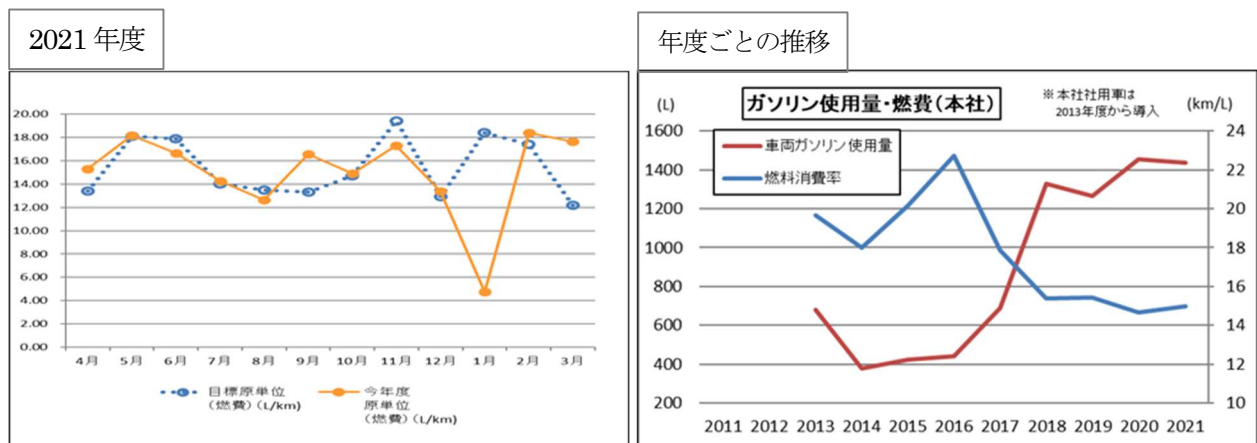
### ○ 取組内容・実績

#### ・エコドライブの推進

目標値である2019年度実績値 15.44km/L に対し、今年度は 14.99km/L と、目標値は達成できなかったが、2020年度（14.65km/L）と比較すると燃費は向上しました。

年間推移のグラフを見ても、2016年からは燃費が悪くなっていたが、今年度は燃費が改善されています。社長の営業車として使用しているが、使用状況によって燃費は大きく変動するのではないかと推察します。

急加速の抑制やエアコン設定温度及びアイドリングの見直し等、エコドライブを実践することで燃費向上に努めていきます。



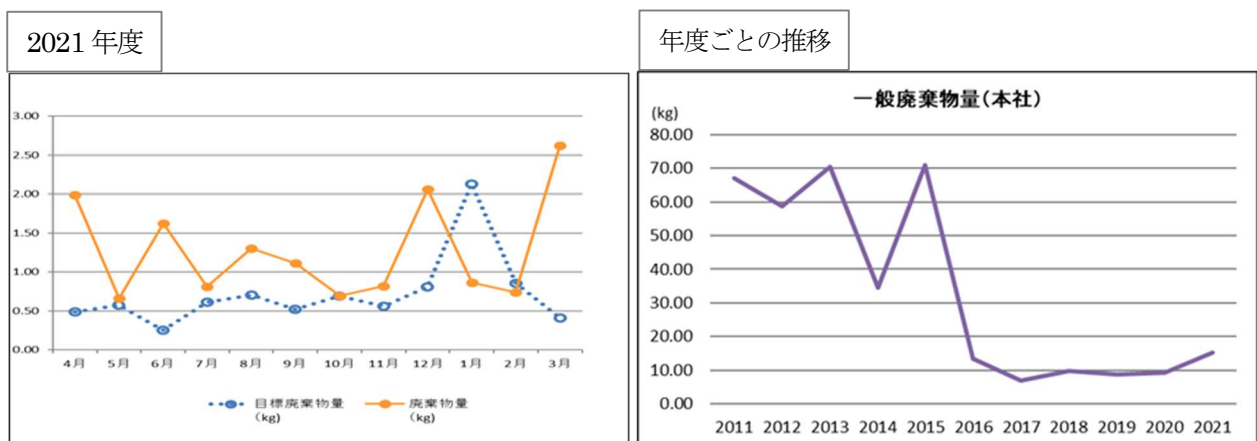
## ③ 一般廃棄物の削減

### ○ 取組内容・実績

- ・裏紙の使用と両面印刷の活用
- ・ゴミの分別、リサイクルの実施

今年度は、年間を通して目標値を超える結果となりました。本社は総廃棄物量が少ないため、新型コロナウイルス対策を講じることにより発生するペーパータオル等の廃棄物量が増加したことが大きく影響したと推察されます。

保管年数を過ぎた書類の破棄及び整理整頓などで一時的に廃棄物が増加する場合もあると思いますが、引き続きウイルス対策を講じつつ、両面印刷・裏紙の使用などで廃棄物の減量に努めていきます。



#### ④ 上水道使用量の削減

##### ○ 取組内容・実績

- ・ 節水を心がける

水道はビル共用のため使用量の把握はできないが、来年度も水を出しっぱなしにしない等、各自で節水を心掛けていきます。

#### ⑤ グリーン購入の推進

##### ○ 取組内容・実績

- ・ 事務用品は、グリーン購入対応品を購入する

2020年度からは、新種類の物品購入時を対象としてグリーン対応品購入数の把握を行っています。

2021年度は、新種類の物品購入はありませんでした。

引き続き、購入時にはグリーン対応品の有無を確認するとともに、可能な範囲でグリーン対応品へ移行することを心掛けていきます。

### ◆ 浄化センター

#### ① 電力使用量の削減

##### ○ 取組内容

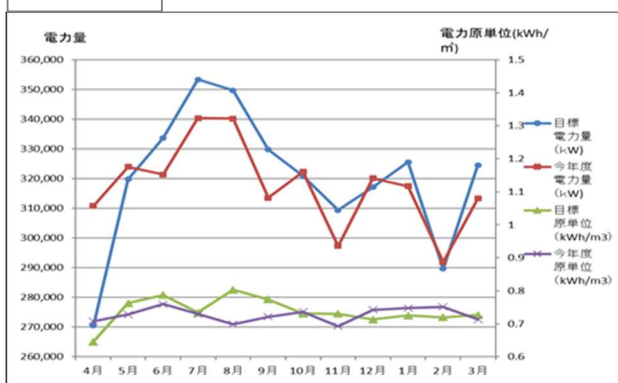
- ・ 退室時に不要な照明は消灯する
- ・ エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する
- ・ 機器運転の効率化（停止可能な機器の停止など）を図る。

処理水量の増加だけでなく、施設増設工事に伴い多数の業者が作業を行っていること及び新型コロナウイルス対策として、冷房及び暖房稼働時でも換気を継続して行っている等の要因による電力量増加が懸念されたが、使用量は年間で70,273kWh、環境目標として掲げている放流水原単位の年間平均値は、0.7452→0.7276kWh/m<sup>3</sup>と減少し、目標値を達成することができました。

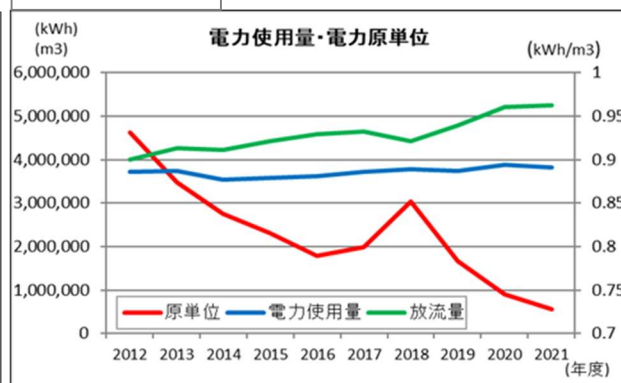
今後も施設の増設が見込まれており、電力使用量の増加は避けることができません。また、処理する水質の状況によって運転方法が変動するため、放流水原単位が大幅に増加する可能性もありますが、弊社で規定している放流水排水基準値の水質を保ちながら、効率的な電力使用に努めていくこととします。

事務所内及び施設内の室内灯などの電気削減活動においては、施設全体の電力量からすると成果が見え難いが、作業後退室時の消灯及び空調設備の設定温度の管理など、引き続き節電を心掛けていきます。

2021年度



年度ごとの推移



## ② 自動車燃料の削減（燃費の向上）

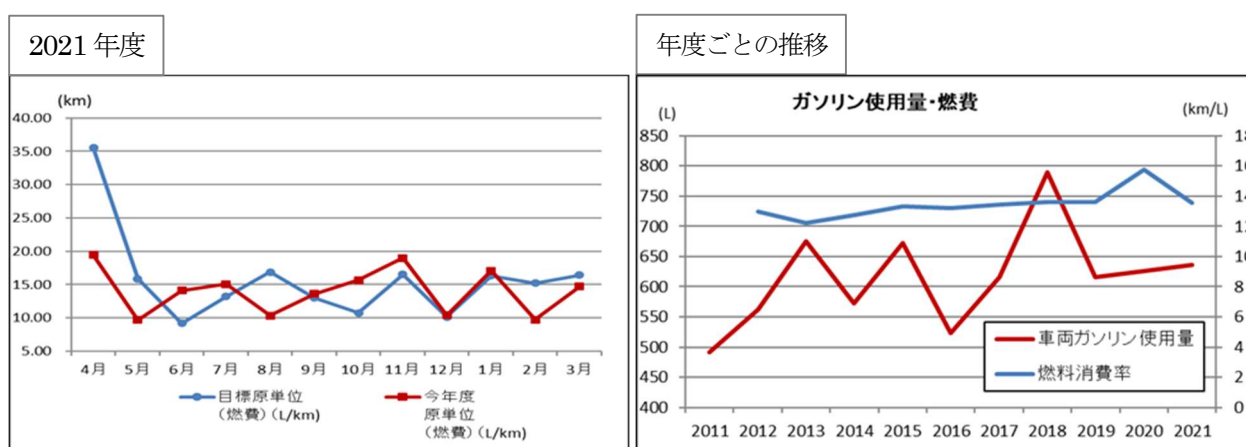
### ○ 取組内容・実績

- ・エコドライブ運転
- ・場内の移動は、なるべく徒歩や自転車にする

2020年度が15.76km/Lに対し今年度は13.55km/Lと、前年度と比較して燃料消費率が高くなりました。

今年度は平年と比較して夏は気温が高く、冬は気温が低かったことによるエアコン使用の増加及び場外での業務が増加したことが燃費が悪くなった要因と考察します。

通常行う点検業務以外、特にマンホールポンプ所で不具合が多数発生した場合は山道の走行となるため、燃費が悪くなる可能性はありますが、今後も、運転方法の改善として、できる限り「急」のつく運転をしないこと及びエアコンの設定温度等をこまめに確認する等「エコドライブ」を実践していくことで、燃費向上につなげていきます。



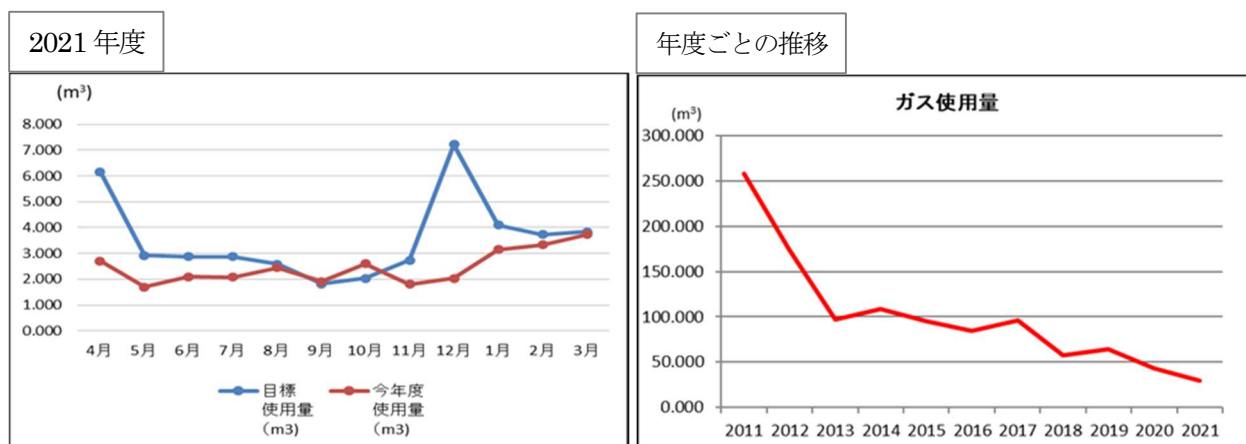
## ③ LPG 使用量の削減

### ○ 取組内容・実績

- ・給湯器温度の適温化を図る。
- ・お湯の使用量を削減する。

今年度も、使用時の給湯設定温度をこまめに変更することを使用量削減対策として行いました。また、未使用時に給湯の電源を切ることを新たな活動として実践したことにより、特に冬期は大幅に使用量を削減することができたと考察します。

2022年度も、給湯器の設定温度を適正に管理していく活動を通して、使用量削減を行っていきます。



#### ④ 廃棄物の削減

##### ○ 一般廃棄物・産業廃棄物 取組内容・実績

(一般廃棄物)

- ・ ミスプリントの防止
- ・ ゴミの分別, リサイクルの実施

(産業廃棄物)

- ・ 整備及び再使用の実施
- ・ リサイクルの実施

(一般廃棄物)

社員一同、廃棄時の分別に取り組むことで廃棄物の減量化を推進することができました。

また、10月から、機械・工具などの油污れに関しては布から紙ウエスに変更し、手袋は使い捨てから再利用可能な手袋に変更したことも、廃棄物量削減に繋がったと考察します。

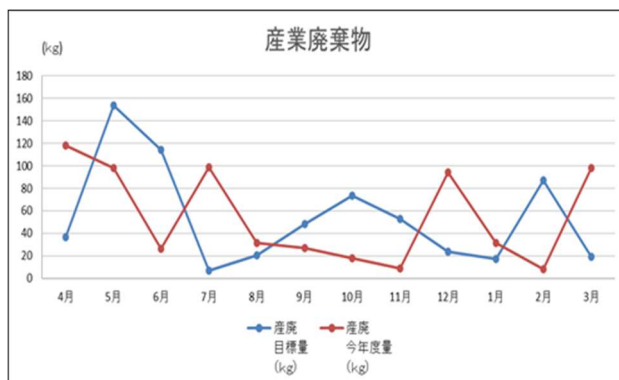
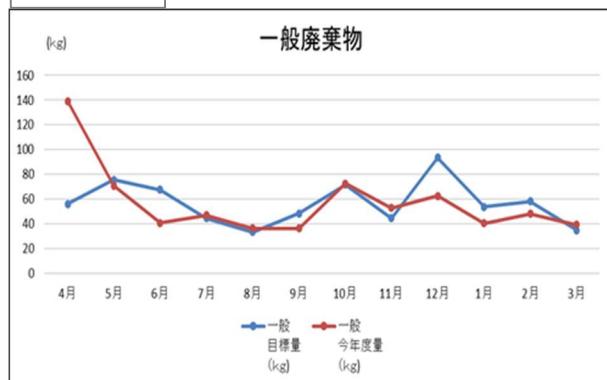
その結果、今年度は施設内の整理整頓に伴う廃棄物が発生した場合を除いて、目標値を達成することができました。今後も、書類などの資源化・ペーパーレス化の推進及び廃棄物の分別に取り組んでいきます。

(産業廃棄物)

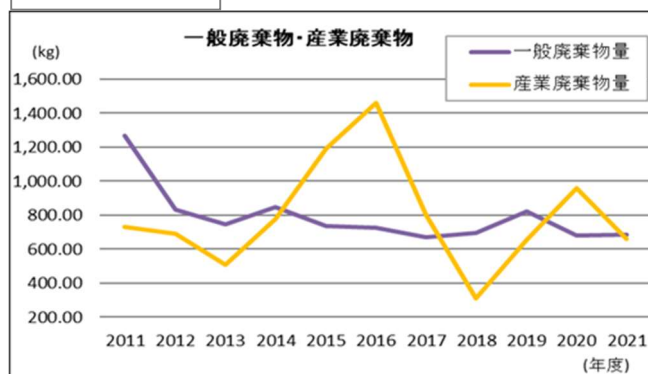
修理及び交換業務に伴う機器・部品の廃棄物重量は、作業内容によって大きく変動します。基準年の動向にあわせて廃棄量の管理を行っていくことはできないが、施設の老朽化及び経年劣化に伴う修理業務が年々増加していくと推察されるため、廃棄量が増加していく可能性があることも、視野に入れておく必要があります。

来年度も不要な廃棄物を出さないよう心掛けていくとともに、産業廃棄物の分別を徹底することで、無駄なく廃棄物リサイクル業へ鉄くずを搬出できるよう5S活動に取り組んでいきたいです。

2021年度



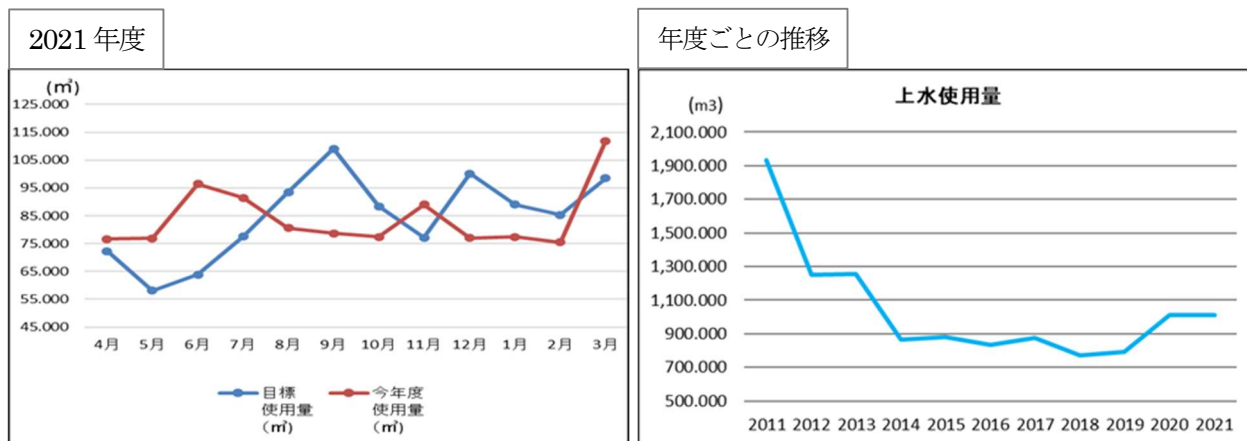
年度ごとの推移



## ⑤ 上水道使用量の削減

- ・ 節水の徹底。
- ・ 蛇口を確実に閉める。

浄化センターでは、月ごとの増減はあったものの、年間総量の目標値は達成できました。2020年8月から設備工事及び施設増設工事に伴い多数の業者が上水を使用しています。今年度の8月～2月は、目標値である2020年度実績値と同じ条件で水使用量を確認できる状況でしたが、11月を除いて目標値を達成できたので、節水対策が徹底されている結果と思います。3月からは違う業社と入れ替わるので、2022年度は使用量の把握をしていくとともに、衛生的な作業環境を確立しながら、使用後は蛇口を確実に閉めることで節水の取組を行っていきます。



## ⑥ 化学物質使用量の把握

### ○ 取組内容・実績

- ・ 特定化学物質が含まれている塗料の購入量の把握を行う

使用量が微量なため管理は行わず、購入している塗料についてのPRTR法に記載されている化学物質量の把握を目標として掲げ、塗料購入量の把握及び塗料使用の効率化を目標達成手段として挙げています。

2021年度は年間を通して適正に管理することができた。2022年度も引き続き適正に管理していきます。

## ⑦ グリーン購入の推進

### ○ 取組内容・実績

- ・ 事務用品は、グリーン購入対応品を購入する

2020年度からは、新種類の物品購入時を対象としてグリーン対応品購入数の把握を行っています。2021年度は、本社・浄化センター共に新種類の物品購入はありませんでした。引き続き、購入時にはグリーン対応品の有無を確認するとともに、可能な範囲でグリーン対応品へ移行することを心掛けていきます。

## ⑧ 放流水排水基準の遵守

### ○ 取組内容・実績

- ・ 良好な放流水の確保のために、流入水及び放流水の水質状況に応じた運転管理を行う

年間を通して、流入水・放流水の水質状況に応じた運転管理を実施することができた。

今後も流入水量は増大していく予定なので、施設の処理能力が増えるまで、最終沈殿池の水面積負荷は高い状態が続くと推測されること及び流入水の条件によっては生物処理をすることが難しい場合も推測されますが、処理水量とMLSSを調整しながら適切な運転管理に取り組んでいきます。



## 🌱 地域貢献・環境活動

- 浄化センター周辺の清掃・ゴミ拾いを行っています。また月に一度、(公財)広島県下水道公社三原支所職員様と合同で、清掃作業を行っています。

この場所は、ウォーキングなどを行う市民の方が多く利用される場所です。市民の方に、心地よい時間を過ごして頂けるよう、美観に努めています。



- 浄化センターの正門付近にプランターを設置しています。一般見学の方の憩いの場となっています。水やりの水は、下水再生水を用いています。

- 社用車に防犯パトロールのステッカーを貼っています。社用車での走行時には、地域の防犯活動も併せて行っています。







○ 場内に造成したビオトープには、メダカを放流しています。水は下水再生水を用いています。

ビオトープには、メダカ以外にもヤゴや、おたまじゃくしも共生しています。

○ ビオトープで育ったメダカは、例年9月に行われる下水道ふれあいデーで、来場された住民の方にメダカをお配りしています。(2021年度は中止。)

メダカの容器は、使用済のペットボトルを再利用しています。

○ 書き損じはがき、未使用・使用済みの切手を集めて、「特定非営利活動法人シャプラニール」に寄付しています。

例えば、63円はがき1枚が、授業で使用するペン3本分になります。

「児童労働削減への取り組み」活動の一助になればと思っています。



○ 社内で、ペットボトルキャップを集めています。

430gで10円分のワクチンができます。一人分は20円必要なので、成果としては微々たるものですが、ポリオワクチン作成の一助になればと思っています。

- 場内の草刈で発生した草及び清掃時に発生した落ち枝葉などを利用して堆肥を作成しています。作成した堆肥は、プランターの花及び（公財）広島県下水道公社三原市所様がさつま芋などの農作物を栽培されている畑の堆肥として利用しています。



- 各種啓発ポスターの一部紹介

<節電>



<節水>



<ごみ分別>



## 環境関連法規への違反、訴訟の有無

当社に適応される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反は、ありませんでした。  
また、過去4年間にわたって関係機関等からの指摘、苦情及び訴訟もありませんでした。

法規等の名称	該当する要求事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	分別排出・排出量の抑制	○
下水道法	水質測定結果の記録・保管	○
水質汚濁防止法 (瀬戸内海環境保全特別措置法)	排出基準の遵守	○
	総量規制基準の遵守・測定記録	○
	水質測定結果の記録・保管	○
騒音規制法	法令基準の遵守	○
振動規制法	法令基準の遵守	○
電気事業法	電気工作物の保安規定の順守	○
	電気工作物の工事、維持及び保安の監督	○
消防法	A重油地下タンク貯蔵所及び保管庫の適正管理	○
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物の適正保管管理	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	第一種特定製品の点検・適正管理	○
地球温暖化対策推進法	施設内設備の点検・適正管理	○
水循環基本法	健全な水循環への配慮	○



## 代表者による全体の評価と見直し・指示

- 2021年度の活動を総括すると、社員一人ひとりが「エコアクション21」の理念を理解した上で、意欲的に活動することができましたが、取組の結果として、以下の項目が目標未達成となりました。
  - 本 社：『自動車燃料の削減（燃費の向上）』、『一般廃棄物の削減』
  - 浄化センター：『自動車燃料の削減（燃費の向上）』、『一般・産業廃棄物の削減』
  
- 2021年度 目標未達成項目の対策について
  - ・ 自動車燃料の削減（燃費の向上）

年間を通して、車両使用時の効率的な走行経路の検討及びエコドライブを心掛けることにより、燃料消費率を上げることに努めていきます。
  - ・ 一般廃棄物の削減

両面印刷や裏紙の使用及び分別の徹底など、資源化を推進することで廃棄物の減量に努めていくとともに、ウエスやゴム手袋など、使い捨てていたものに関する再利用対策の取り組みを継続して行っていきます。
  - ・ 産業廃棄物の削減

不要な廃棄物を出さないよう心掛けるとともに、廃棄時に分別を行い、廃棄物リサイクル業者への搬入を推進することで廃棄物の資源化に努めていきます。
  
- 2022年度の目標設定について

2022年度環境経営活動の基準年は、今年度目標達成項目においては2021年度とし、実績値を基に目標値を算定します。

目標未達成の項目においては、2021年度の環境経営計画の実績状況を基に協議した結果、基準年を2020年度として活動を行うこととしたが、状況に応じて検討していきたいと思えます。
  
- 2022年度 取り組み状況など変更予定について
  - ・ 浄化センターの契約電力会社が、新出光から中国電力ネットワークに変更
  - ・ 本社、浄化センターともに、電力量二酸化炭素排出係数の更新
  - ・ 2022年度中に、現場事務所内のガスコンロをIHヒーターに変更
  
- 来年度も、全社員が協力して、『小さなエコ活動の積み重ね』を大切にしながら業務を行っていき、持続可能な社会を構築できるように努力していきたいと思えます。